

教育目標：なかまとともに、進んで学び、たくましく、思いやりのある子どもの育成

細野小学校  
学校通信

桜の学び舎 細野小

令和3年度  
第3号（6／1発行）

## 気持ちをきりかえて 最高の運動会にします！

文責：衛藤慎二



運動会が9月に延期になって最初の登校の朝、私が様子を見回りながら歩いていると、ある子供と運動会のお話になりました。

その子は、「運動会ができなくて残念だった。」と言いました。私も、うんうんと聞いていましたが、次の言葉にびっくり！「でも、運動会が9月になって、よかったこともある。」と言ったのです。「何がよかったの？」と尋ねると、

「今、どうしても勝てないライバルがいて、日曜日が運動会だったら負けていたと思う。でも、9月になったので、一生懸命練習して、その友達にかけっこで勝ちたい。勝てるチャンスができた。」

と話してくれました。



### 「気持ちを切り替えて頑張る」

その子供から教えてもらったことです。細野小では、最近、**フラス思考の子供が増え**、本当に心強いです。

コロナフラス眼鏡



## 友達や自分の『よさ』を見つけよう！

6月の全校朝会（校内放送）では、次のような物語を紹介しました。

### 【あらすじ】

あるところに、6人の目の見えない人がいました。

6人は一度も、ゾウを見たことがありません。

そこで、ゾウにさわって、その正体を突きとめようとなりました。

- 1人目の人は、象の鼻に触って、「象とは、へビのようなものだ」と言いました。
- 2人目の人は、象の耳に触って、「象とは、うちわのようなものだ」と言いました。
- 3人目の人は、象の足に触って、「象とは、木の幹のようなものだ」と言いました。
- 4人目の人は、象の胴体・体に触って、「象とは、壁のようなものだ」と言いました。
- 5人目の人は、象のしっぽに触って、「象とは、ロープのようなものだ」と言いました。
- 6人目の人は、象の牙に触って、「象とは、槍のようなものだ」と言いました。

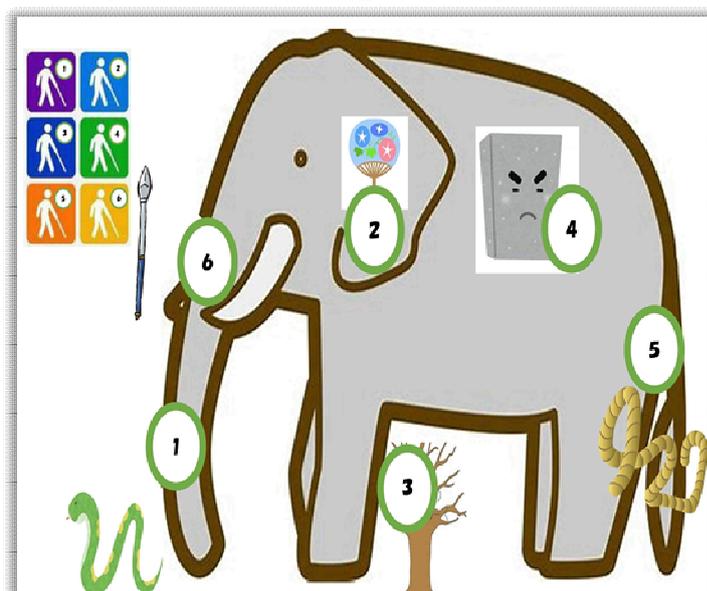
6人が触ったのは、象の身体の一部なのに、6人は、その一部分こそが『象の正体』だ  
と思ひ込み、言い争いになりました。

でも私たちは、この6人のことを笑えるでしょうか？

私たちも、『友達』や『自分自身』の一部分だけを見て、「あの人は意地悪だ。」とか「自  
分は何をやってもだめだな。」と決めつけ  
てしまうことがあるからです。

このお話からは、『視野を広げ、多面的  
に物事をとらえることの大切さ』について  
も学ぶこともできます。

冒頭で紹介した『気持ちを切り替えて頑  
張る』ことを教えてくれた子供以外にも、  
**運動会の延期を前向きに捉えて頑張ろうと  
する子供がたくさんいる**ことを担任の先  
生方から教えてもらいました。とても  
嬉しく心強く感じました。



これからも、自分や周りの人、様々な出来事の『よさ』目を向け、前向きで『やさしさ』  
いっぱい細野小にしていきたいです。

## 教育実習生の紹介

5月31日より3週間、4年1組で教育実習が行われます。毎日の授業や休み時間の遊び、  
全校の体力テスト等、細野小学校の教育活動に携わっていただくことになります。実習生  
の押領司さんを紹介します。



### 【4の1実習生】 おうりょうし まなみ 押領司 真岬 さん

細野小学校の平成23年度の卒業生です。自分の卒業した母校  
で実習できることがとても嬉しいです。子どもたちと共に学び、  
遊び、先生方からたくさんのお話を吸収していきたいです。

※ 押領司さんは、6年生の押領司彩良さんのお姉さんになります。